

2019年度

全学部統一入試

国語総合

(古文選択可・漢文を除く)

[60 分]

〔共通問題〕

〔一〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

足は、立つためにどんな仕組みになっているか。足の骨と筋肉の話をしよう。

手と足は、基本的には同じつくりになっている。しかし一方は立つために、他方はキョウウな作業をするために進化した。手より足の方が、大きくがっしりしている。体を支え立つには、そうでなければならぬのだ。腕は肘のところ(ア)で回転するが（解剖学では回旋という）、膝ではそのような動きはできない。がっしりと関節が組みあつて、重さを支えるためのケンゴさがなにより求められるからだ。

足の筋肉は、腕よりも太く大きい。とくに目に付くのが、お尻とふくらはぎの筋肉だ。足は、四本足で立っているときには、胴体に対して直角に曲がっていた。ところが立つことで、胴体の軸と同じになった。足を、ぐいと後に引く。そのままの姿勢で、しっかりと、動かないようにする。それを支えるために、お尻に巨大な筋肉がついた。これが「大殿筋」だ。尻が大きいという、ブタやカバなどを想像してしまう。しかしこれらの動物は、巨体の割にはお尻は小さい。二足直立をするヒトだけが、お尻の大殿筋を巨大に強力にした。

また太腿(ふともも)の前にも、大きな筋肉がある。「大腿四頭筋」という。これは膝を伸ばす。そして、ふくらはぎの筋肉。つまり下肢の筋肉は、尻、腿、下腿と、aと大きくなっている。そうやって足をまっすぐに伸ばし、そのままの姿勢で体を支える。つまり「立つ」。

ふくらはぎの筋肉は「腓腹筋」という。その奥にはひらめ筋という筋肉もある。この二つの筋肉がアキレス腱(けん)となり、かかとの骨につく。これで足首を伸ばす。つまり地面(ウ)をけるような働きをする。「歩く」のだ。

立つ、歩く。それが足の骨と筋肉の役割だ。

その立つという「感覚」について考えたい。立ち上がって、目を閉じてみよう。足が立っていることを感じるだろう。片足を持ち上げて、一本の足で立ってみよう。足は、さらに強く立っていることを感じる。膝が、足首が、そして上半身が、前に横に、そして後に傾くを感じる。それに抗して、立ち続けようとする。

足は、バランスの軸をさぐり、それと一体化しようとする。地球の重力の軸は、どこにあるのか。b足は、地球との対話をする。この感覚が磨かれて、研ぎ澄まされる。その先に何が生まれるか。ヒトの身体にとって、もつとも基本的で大切な何か。

それが芸術のベースになる。

人は、地球の重力に対して立つことで、上と下という方向性の軸を獲得した。

人にとって、どちらが上で、どちらが下かということは重要だ。その軸にそって立つからだ。頭は上にいく。足の底は下だ。これは地球の重

力が、感性や知性の大切な要素となったことでもある。上と下の方向性を意識することは、地球を意識することにもなる。

美術においても、「立つ」ということは大切だ。とくに人体彫刻においては、立っていないければ「人体」ではない。立っているという佇まい(1)、それがうまく造形されていれば、ヒトらしく見える。彫刻としても美しい。

坐像ざざうや胸像むねざうはいい。しかし立像では「立って」いなければ、いくら顔が似ていても、体形の特徴がとらえられても、すべては台無しになってしまう。逆に、彫刻が立っていれば、それだけで彫刻として十分にオーケーとも言える。

かつて彫刻家の佐藤忠良(注1)が、仏像の造形について語っていた。彼はロダン彫刻の影響を受け、西洋の彫刻のシンズイ(エ)に、日本人としてのスタンスを失わずに迫ろうとした彫刻家だ。西洋彫刻の手法で、いかに日本人像をつくるか。それを最初になしとげた一人だった。その西洋彫刻でいちばん大事なものと「立つ」ことの造形があった。[X] 彼にとつての彫刻の美学でも「立つ」ことが何よりも重要になる。そんな佐藤忠良が、奈良や京都にある日本の古い仏像を見て、その多くが「立っていない」ことに気がついたというのだ。

たしかに仏像は、台に足をつけて、垂直の姿勢をしている。立っているように見える。しかし西洋の彫刻に学んだ彫刻家の目には、それは「立って」いない。頭の上に支点があつて、そこから下に「ぶらさがつて」いるようにしか見えないというのだ。

仏像は立っていない。

もちろん、仏像はそれでいい。この世の人間を超越した存在なのだから、[c] という現実世界の法則にしばられる必要はない。そのほうが正しい。仏像の魅力は、立っていないことにあるといつてもいい。

しかし「人間」を造形しようとしたら、立っていないといけない(d)。リアルというのは、そういうところから生まれる。

ヨーロッパの彫刻では、ロダン(注2)でもミケランジェロ(注3)でも、みんな「立って」いる。たとえば、ミケランジェロの若い頃の傑作『ダビデ像』。この、人間の二倍もあるような巨大な彫刻は、台の上ののつていて、下から見上げる。まず目に入るのが足だ。ふくらはぎの腓腹筋。そしてその上の、大腿の筋肉。さらにお尻の大殿筋。まさに立ち上がる足の、その筋肉の連なりをアオ(オ)ぎ見る(カ)。

またミラノにある、晩年の名作『ロンダニーニのピエタ』では、聖母マリアが死せるキリストを力(カ)えながら、すつくと立っている。その足の造形は力強い。死んだキリストのほうは、もう死んでいるから力なく、だらりとしている。しかし死んだ息子を支え、悲しみにくれる母は、しかしそれでも力強く、倒れない。そのすつくと立つ足は、息子の死んで脱力した足の様とのコントラストで、よりいっそう、生きて立つことのすばらしさを教えてくれる。ヒトは、立つだけで、その存在は美しいと。

彫刻だけではない。ダンスでも演劇でも、足で立つことは、表現の上で重要だ。演出家の鈴木忠志(キ)は、「足に始まり、足に終わる、これが私のハイユウ訓練のすべて」と語る。彼は、そこから独特のトレーニング法をみ出した。役者が、足の存在の強さを感じるための方法だ。鈴木忠志の言葉を、そのまま引用しよう。あなたも一緒にトレーニングしているつもりで、その稽古場のさまを想像してほしい。

「規則正しいリズムの音楽にあわせて、一定の時間足踏みをするのがある。足踏みというより、少し腰をおとして、床を激しくたたきながら動くのである。音楽が終わると同時に脱力して床に倒れる。そのまま死んだような静寂のなかで横たわる。しばらくの間があつて、今度は前とは変わったゆるやかな音楽がなり、その曲の変化にあわせて、思い思いのやり方で立ち上り、最終的に直立二足位の自然体にもどる。」(『足の生態学』より)

そうやって「立っている」感覚をかたちにするだけで、見ている人には何かが伝わる。芝居がかつた顔や手の演技よりも、もつと深く、相手の心にしみ込んでくる何かが。それは顔の表情や、腕の仕草や、あるいは喜怒哀楽の感情や、そういったものよりも強く深い何かだ。涙を流すなんて、浅い。もつと深く、強いもの。それくらい本物の何かだ。

芸術は、「それ」を形にするだけいい。

ピッツバーグ郊外に、アメリカでいちばん有名な家がある。フランク・ロイド・ライトの『落水荘』(一九三五年)だ。滝の上に建っている。建築は、ふつう土の上に建てられる。岩盤の上に建てられることもある。Y 滝の上に建てられる家というのは滅多にない。Y 『落

水荘』は、滝の上にある。もちろん、ボートのように水に浮いているわけではない。溪流脇の岩の上に建てられているのだ。この家は、壁の外に自然の岩壁があり、また家の中にもその延長の岩があり、壁や床になっている。大自然のままの家だ。家の外も中も、その境がなく、自然と一体化したような家なのだ。

ときに家は自然を排す。あらゆる自然をシャットアウトして、まったく人工物だけの空間をつくる。しかしフランク・ロイド・ライトは、決して自然を切り捨てはしなかった。

『落水荘』は、岩盤の迫力、そして名前のとおり、水が落下する滝の美を教えてくれる。この家の横を流れる溪流に沿って、下流に行ってみる。川の流れ越しに『落水荘』が見えるポイントがある。家はまさに滝の真上にある。

私が訪ねたとき、雪解けで水量が増した季節でもあったせいかもしれないが、滝の水は激しく多量だった。その上に家がある。滝の上に家があるなんて、⁽²⁾過激な造形である。

ライトは、日本の金閣寺をイメージし、この家も金を塗ろうと計画したようだが、あまりにやり過ぎということ^(ク)でセシユの反対にあい、それは実現しなかった。ちなみに、金閣寺も池の上にある。

しかし静かな池面の上にある金閣寺と、ごうごうと流れ落ちる滝の上にある『落水荘』では全然ちがう。さらに、フランク・ロイド・ライトが後年につくった、砂漠に建つタリアセン・ウエストと比べると、水のリアリティがいっそう増して感じられる。アリゾナの砂漠にあるタリアセン・ウエストは、裏庭が本格的な砂漠で、水のない世界だ。その乾いた、荒れた土地と、森の中の滝の上にある『落水荘』の環境はコントラストが大きい。

そこは砂漠ではなく、森の中であり、川の近くであり、滝の上だ。家の下に、水が落下している。水が下に流れている。それをじっと見つめていると、あるとき、水が「止まって」見える瞬間がある。もちろん滝の流れが止まったのではない。でも目には、一瞬だが、それが止まったようにサツカクされる。すると周囲が動き始める。滝の落下する水を凝視した後に、その上の家を見ると、滝の流れとは逆に、家が上に向かって動いているように見えるのだ。まるで宇宙船のように、家はジェット噴射をしながら、天に上昇していく。滝は、その噴射の煙である。世界が、動きはじめる。

フランク・ロイド・ライトが、滝の上に家を建てることで、成しえたのは、^(f)そういうことだったのか、と思う。

水は、地球の重力にしたがって落下する。その水の動き。滝の水の流れは、重力を「見える」ようににしたものである。水はなぜ落下するか。そこに重力があるからだ。それは二足直立するヒトの足が、ずっと感じていることでもある。滝の上に建った家は、その「力」を視覚化する。さらにその上にある不動の建築が、動き出す。するとそれを見ている自分も、地上から離れて一緒に^(g)フユウしていく感覚にとらわれる。体が、上昇している。『落水荘』は、見る者の「g」にも響いてくる造形である。

(布施英利『体の中の美術館』による)

(注1) 佐藤忠良……(一九二二～二〇一一) 近現代日本を代表する彫刻家。

(注2) ロダン……(一八四〇～一九一七) 近代彫刻の展開に多大な足跡を残したフランスの彫刻家。

(注3) ミケランジェロ……(一四七五～一五六四) イタリア盛期ルネサンスの彫刻家・画家・建築家。

(注4) フランク・ロイド・ライト……(一八六七～一九五九) アメリカの建築家。二〇世紀建築の巨匠。

問一 傍線部(ア)～(コ)の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は 1 。

(ア) キヨウ

1

- ① ケツキ集会を開く
- ② 複雑カイキな出来事
- ③ 生まれもつてのキシツ
- ④ キイトの生産地
- ⑤ キカイトイソウの授業

(イ) ケンゴ

2

- ① イツケンが落着する
- ② 方針をケンジする
- ③ ケンジュツを指導する
- ④ キケン地帯を通る
- ⑤ ケンリを主張する

(ウ) ケル

3

- ① シユウブンが立つ
- ② 物事にシユウチャクする
- ③ 要求をイツシユウする
- ④ シユウカイ遅れとなる
- ⑤ シユウカ敵せず

(エ) シンズイ

4

- ① 他のツイズイを許さない
- ② コクスイ主義の立場
- ③ 関係をジャスイする
- ④ 恨みコツズイに徹す
- ⑤ 村を襲ったコウズイ

(オ) アオギ

5

- ① 必死のギョウソウ
- ② 気持ちの一つにギョウシユクする
- ③ 高いギョウセキをあげる
- ④ びっくりギョウテンする
- ⑤ 天皇のギョウコウを待つ

(カ) カカエ

6

- ① 将来のホウフを語る
- ② 茸きのこのホウシ
- ③ 大きなホウヨウリヨク
- ④ スイホウに帰する
- ⑤ 生活様式をモホウする

(キ) ハイユウ

7

- ① ユウゼンと構える
- ② 温泉のユウシユツするところ
- ③ ナイユウ外患
- ④ 競技でユウシヨウする
- ⑤ 不世出のエイユウ

(ク) セシユ

8

- ① セジヨウにうとい
- ② 計画をジツシする
- ③ アサセを歩いて渡る
- ④ 午前九時にシギヨウする
- ⑤ 肉体をコクシする

(ケ) サツカク

9

- ① サクイの跡が残る
- ② こまかいことをセンサクする
- ③ サツコンの世界情勢
- ④ 期待と不安とのコウサク
- ⑤ 裏でカクサクする

(コ) フユウ

10

- ① ジフの気持ちを持つ
- ② フホウに接する
- ③ 軽佻^{けいちよう}フハク
- ④ ホウフな資源
- ⑤ 幼い弟たちをフヨウする

問二 傍線部(1)「佇まい」・(2)「過激な造形」の本文中の意味として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は ・ 。

(1) 佇まい

- ① 立っている様子の静かな感覚
- ② 立ち続けているかたち
- ③ 立ち止まっているさま
- ④ 立っている姿の侘^わびしい感じ
- ⑤ 立ち姿からかもし出される雰囲気

(2) 過激な造形

- ① 常識からは考えられない建て方
- ② かたよった思想による建築
- ③ 度を越した飛び切りの建築物
- ④ 穏やかさを欠いた建物
- ⑤ 激しく心を揺さぶる建造方法

問三 空欄 に入る最も適切なものを、次の中から選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 前・後・後
- ② 後・前・後
- ③ 後・後・前
- ④ 後・前・前
- ⑤ 前・後・前
- ⑥ 前・前・後

問四 傍線部 (b) 「足は、地球との対話をする」とはどういうことか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 膝・足首・上半身が前や横や後ろに傾くを感じ取りながら、感覚を磨くこと。
- ② 一本足でもふらつきながら地球の重力に逆らって立ち続けること。
- ③ 目を閉じて立ち上がることによって、地球の重力を感じとり、感覚を研ぎ澄ませること。
- ④ ヒトの身体にとって、もつとも基本的で大切なことを立つことで地球とさぐりあうこと。
- ⑤ 地球の重力の軸を感じながら、立ち続けるためのバランスの軸をさぐること。

問五 空欄 ・ に入る最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は X は ・ Y は 。

- ① さて
- ② でも
- ③ しかし
- ④ だから
- ⑤ そして
- ⑥ また

問六 空欄 に入る最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 地球の重力
- ② 垂直の姿勢
- ③ 支点
- ④ 彫刻家
- ⑤ 西洋の彫刻

問七 傍線部(d)「リアルというのは、そういうところから生まれる」とはどういうことか、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 西洋の彫刻の手法を取り込みながら、「立つ」ことを大事にして像を作り出すことではじめて現実的なものとなる。
- ② 日本の古い仏像が「立っていない」ことを十分に認識した上で、像を作ると現実的なものを作り出すことになる。
- ③ 下に「ぶらさがって」いるようにしか見えない像のあり方を排除してはじめて現実的な像を作ることになる。
- ④ 彫刻で人の立像を作るときには「立つ」ことの造形があつてはじめて現実的なものとなる。
- ⑤ 「立つこと」を重視して像を作るとき、はじめてその像は西洋の手法に準じた現実の存在となる。

問八 傍線部(e)「それ」が指していることはなにか、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 足で立つこと
- ② 足に始まり、足に終わる訓練
- ③ 足の存在の強さ
- ④ 「立っている」感覚
- ⑤ もっと深く、強いもの

問九 傍線部(f)「そういうこと」とはどういうことか、最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 落下する水の流れによって、家が天上に上昇していく感覚を得させ重力を感じさせること。
- ② 静かな池面の上にある金閣寺をイメージして作ること、逆に滝の流れを感じさせるようにすること。
- ③ 滝をジェット噴射の煙のように見せることで、家と周囲とが動きはじめるような感覚を得させること。
- ④ 水の流れを見つめることで、水が「止まって」見える瞬間を作りだし、周囲の動きを感じさせること。
- ⑤ 地球の重力にしたがって水が落下する動きを見せることで、建築物が動いている感覚にさせること。

問十 空欄 g に入る最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 21。

- ① 手 ② 足 ③ 軸 ④ 力 ⑤ 動

問十一 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし、解答順は問わない。解答番号は 22・23。

- ① ダンスでも演劇でも立つことを重視したトレーニングをしたほうがよく、直立二足位の自然体を表現できるようになるのが重要である。
- ② 足と手とは同じ作りではあるが、足のほうが全体的に筋肉が多いのは手が細かな仕事をこなすために筋力が衰えたためである。
- ③ 重力を感じさせる立っている彫刻の像を作ると、日本の古い仏像とは異なる彫像を、日本人としてのスタンスを失わずに作ることにできる。
- ④ 人は立つことで重力を感じることができるようになり、上と下という方向性の軸を獲得し、感性や知性を得ることができるようになった。
- ⑤ 『落水荘』は滝の上に建っていて尋常な建築物とは言い難いが、砂漠に建つタリアセン・ウエストと対照に、水のリアリティを感じさせる。
- ⑥ ミケランジェロの『ロンダニーニのピエタ』は死んだキリストを支えて立っている聖母マリアの像であり、立つことの美しさを感じさせはするが、重力は感じさせない。

〔選択問題〕 〈現代文〉か 〈古文〉かの、どちらかを選択して、一方のみを答えなさい。

〔二〕 〈現代文〉 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

夢を見る時は何語で見ると聞くと、わたしはこの質問を聞くといつもちょっと頭にくる。「一つ以上の言語をしゃべっている人間は正体が分からない、片方が嘘で、片方が本心だろう」と言われたような気がする。日本語にも「二枚舌」という言葉があるが、一つ以上舌があると、嘘つきだと思われてしまう。「あなたは日本語が母語でも、本質的にはドイツ人になってしまったのではないのか?」とか「あなたはいくらドイツ語をしゃべっていても、魂は日本人ではないか?」とか「本当の自分はどっちなんだ?」とか聞かれたような気がする。この「本質的には」とか「魂は」とか「本当の自分は」という考え方が嫌なのである。夢について尋ねる人たちは、本当の自分はどっちなのか決めてしまわなければ気がすまないようだ。起きている時は巧みに嘘をついていても、夢の中では本人の作意が機能しないから「本当の自分」がつかぬままではないか、と考えているらしい。

しかし実際は、本当の自分にこそ舌がたくさんあるのであって、夢の中でもいろいろな言葉をしゃべっている。日本語とドイツ語だけでなく、一生懸命努力して英語をしゃべっていることもあるし、ポランド語など、できないはずの言葉を楽しくしゃべっていることもある。わたしは全くスペイン語ができないのだが、スペイン語の悪夢も時々見る。これから聴衆の前で自分の原稿を読まなければいけないという時に、原稿をよく見ると、確かに自分が書いた本なのに、スペイン語で書いてあるので読めない。どうしようかと狼狽し、心臓はどきどきし、額は冷や汗にべっとり濡れて、息が苦しくなり、目がさめる。これは「それって、なんだかスペイン語っぽいわね」という慣用句がドイツ語にあり、それが「A」という意味なので、そこからきているのかもしれない。夢は、慣用句を文字どおり具体化してしまうことがある。ということは、この夢はドイツ語で見たことになる。夢のストーリーを作っているのがドイツ語の慣用句だからだ。

とにかく、「夢は何語で見ると聞くと、わたしは、自分が夢でしゃべっている言語を自分で理解できない女性を主人公にした「夜の映画館」という題の小説をドイツ語で書いた。彼女の夢の言語は、なんだか「ずれている」言語で、ドイツ語と少しだけ似ているが、ドイツ語ではない。習ったことのない外国語。そのうち偶然にオランダ人と知り合って、いつも夢に出てくる言語がアフリカンス語だということが判明する。アフリカンス語は、南アフリカに行ったオランダ人の言葉が現地で独自の発展をしてくる言葉だが、本国のオランダ人から見るとちょっと古臭くて素材に聞こえることもあるようだ。わたしの耳には何とも面白く聞こえる。ドイツ語と似ていて、分かれるところもあるが、「ずれ」の感じが夢を思わせ面白い。たとえば、leckerという形容詞があり、ドイツ語では、食べ物美味しいという意味にしか使わないが、オランダ語やアフリカンス語では、天気にも服にも人にも使えるので、なんだか「今日の天気はおいしいですね」

「この服、おいしいわ」、「あの人って、本当においしい」と言っているようで、聞いていて楽しい。この小説の主人公はアフリカには親戚も友達もないし、まだ行ったこともない。つまり、「本当の自分」であるはずの夢の言語が、自分とは無関係な遠い土地にあるのだ。なぜそうなってしまったのか、理由は本人にも分からない。とにかくケープタウンに旅行する決心をする。ここまでこの小説を書いて、取材と執筆のためにわたしは二〇〇〇年の夏、二週間の予定でケープタウンに出掛けた。夏というのはドイツが夏だったということで、南半球にある南アフリカは冬だったが、それでもケープタウンの冬の方がハンブルクの夏より気温が高かった。

ケープタウンに着いた日に、コンコルドが墜落した。驚いたのはコンコルドが墜ちたことではなく、テレビをつけると、十一ヶ国語で次々と同じニュースを伝えていたことだ。見せる映像は同じだが、言葉の響きはそれぞれ全く違う。メディアの世界というのは、映像的には貧しいものだという意外な事実気がついた。映す映像はいつも同じで、変化に富んでいるのは言語だ。文化の多様性を背負っているのは言語なのだ実感した。その十一ヶ国語には、英語とアフリカーンス語も入っていたが、その他の現地の言葉は初めて耳にするものばかりだった。コサ語などに舌を打ち鳴らす音が入ることは話には聞いていたが、実際にテレビから聞こえてきた時にはそれと分ならず、テレビの機械の調子が悪いせいでバチバチと音がするのかと思って、コードをしつかり入れなおしてみたりした。たとえばkを発音する時に全く同時に口の中で「コッ」と舌を鳴らしたりするのだが、話し手の顔を見ているだけでは、二つともその人の口の中から出た音なのだという感じがしない。教則本に従って自分でも毎日練習してみたが、最後までできなかった。

しかし十一ヶ国語も公用語があって、これからどうやっていくのだろう。これがわたしの初めてのアフリカ経験で、それまで知らなかったこの大陸に興味を持ったのも、言語がきっかけだった。二年後にセネガルに行くと、同じアフリカといっても当然ながら場所によって何もかも全く違っていることが分かったが、言語状況が興味深いという点は共通していた。

小さな言語がたくさん存在する状態にあったアフリカにヨーロッパ人が来て植民地化し、自分たちの言語を強制する。植民地時代が終わると、ヨーロッパ人が帰っていった、現地ではたくさんある自分たちの言語のうちのどれを公用語にするか、もめる。セネガルのように、自分のグループの言葉以外の言葉が公用語になるくらいなら、フランス語が公用語になった方がずっといい、とほとんどの人が考える場合もある。そうではなくて、南アフリカのようにたくさんさんの言葉を公用語にすることも可能性としては想像できたが、実際にテレビをつけるとやはり驚いた。これで平気なんだろうか。そこにまつわる社会問題、教育問題にはいろいろと大変な面があるだろうし、それについてはわたしなどには口出しする資格も能力もないが、問題点だけでなく、多言語社会はこれまでになかったような可能性も含んでいるように思える。

言語の多様化現象は、発展途上国の問題として片付けられない。アフリカにたくさんさんの言葉があるのは文明が遅れているからだと思ひ込んでいる人が工業先進国には多い。たとえばドイツなどでも「書き言葉の統一は、マルチン・ルターが聖書をドイツ語に訳した時に解決した。もう昔の話だ。今はそれどころか、ビジネスやコンピューターの言語である英語というものを世界の共通語にして生きる時代だ。だから、部族間の

言語の違いなど早く克服した方がいい」と言う人がいる。多言語は重荷になるだけだ、たくさんの言語を一国の公用語にするなどというそんな不合理なことをしていたら、国際競争にますます勝てなくなる、という理屈だ。しかし、そう簡単に判断できるものかどうか、わたしは最近ますます疑問に思う⁽²⁾。

多言語社会は確かに「むずかしい」。ドイツも公用語は一つだが、現実的には多言語社会である。たとえば、移民の子が言葉が充分にできないために学校の授業についていられないということが問題になっている。そんな問題は二世代目になれば自然に解決するだろうと思っただけで、真剣に対策を練らずにいたら、そうではなかった、ということがよく新聞に書いてある。ドイツで生まれ育った二世代目は日常会話だけでも高等教育に進むのに必要な学力のない子供の割合が大変多いことが最近の調査で分かった。しかし、それを移民そのものの問題にすり替えて、だから外国人を入れない方がいいという保守派の意見も間違っている。なぜなら、たとえばスウェーデンなどの移民二世の学力は高いという統計も出ている。つまりこれは移民の問題ではなく、その国の教育の問題なのだということになる。日本では、クラスの生徒の三分の一以上の子が日本語が分からないという状態を体験した小学校教師はほとんどいないのではないかと思う。そういう状況で授業を進めていくには、これまでの教師養成プログラムだけでは間に合わない。

しかし、そういう時代の状況をチャンスとして捉える励ましになるような記事をアメリカで読んだこともある。バイリンガルの子とそうでない子を比べた場合、普通に勉強していると、バイリンガルの子の方が学力が劣る傾向にあるが、普通以上に勉強した場合、バイリンガルの子の方がずっと高いレベルに達するという統計が出てくる⁽³⁾。別に統計というものを妄信するつもりはないし、学力などそう簡単に測れるものではないと思うが、この調査結果に納得してしまう理由がわたしにはある。わたしはバイリンガルで育ったわけではないが、頭の中にある二つの言語が互いに邪魔しあって、何もしないでいると、日本語が歪み^{ゆが}み、ドイツ語がほつれてくる危機感を絶えず感じながら生きている。放っておくと、わたしの日本語は平均的な日本人の日本語以下、そしてわたしのドイツ語は平均的なドイツ人のドイツ語以下ということになってしまう。その代わり、毎日両方の言語を意識的かつ情熱的に耕していると、相互刺激のおかげで、どちらの言語も、単言語時代とは比較にならない精密さと表現力を獲得していくことが分かった。

子供だつて、ドイツ語だけできるよりは、ドイツ語とトルコ語と両方できた方がいいに決まっている。そういうところに多言語国家の可能性を見たい。技術獲得の道具として言語を見た場合は多言語は不合理に見えても、言語自体に価値を見て時間をかけて毎日耕せば、そこから出発して「単言語人間」ばかりだった時代にはできなかったことを成し遂げることができるかもしれないのである。そのためには、当然、教育や文化にもっともつと時間とお金をかけなければいけない。そうでないと、豊かさを与えてくれるはずの複数言語が、逆に足枷^{あしか}になってしまう。

(多和田葉子『エクソフォニー ―母語の外へ出る旅』による)

問一 傍線部(1)「頭にくる」のはなぜか。適切でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 複数の言語を操る人間は嘘つきだと思われるから
- ② 多言語を使い分けると自分の本質を隠してしまうと思われるから
- ③ 「本当の自分」は必ずどちらかの言語にあると決めつけられるから
- ④ 夢の中でしか魂を見せない用心深い人と思われるから
- ⑤ 夢の中で使用する言語が記憶されないと考えられるから

問二 空欄 A に入る最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① おおげさ 大袈裟
- ② エキゾチック
- ③ 夢心地
- ④ ずれている
- ⑤ わけが分からない

問三 傍線部(2)「疑問に思う」ことの根拠として適切なものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。解答番号は ・ 。

- ① 移民に対して言語教育の対策を真剣に講じなかった社会に対して不信感が生まれる。
- ② 移民などによる多言語社会が「むずかしい」というのは、その国の教育問題も重要な要素として考慮すべきだ。
- ③ スウェーデンやアメリカのように、国によってバイリンガルの子が普通以上に勉強する統計がある。
- ④ 日本はまだ移民による多言語社会ではないので、教師養成プログラムなどの対策を練るには時期尚早だ。
- ⑤ 高等教育に進むのに、普通以上に勉強しなければならないのは世界共通の認識だ。
- ⑥ 二つの言語を意識的に用いることによって、表現力がより高いレベルに達することが見込まれる。

問四 傍線部(3)「納得してしまう理由がわたしにはある」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 私はバイリンガルで育ったわけではないので、二つの言語が常に互いに邪魔しあい、歪んでしまう傾向がある。
- ② バイリンガルの子の学力が劣るか、より高くなるかは言語使用に伴う危機感に左右されるという調査に賛同する。
- ③ ドイツ語と日本語とは相性が悪いので、自分の日本語が平均的な日本人の日本語以下になるのではないかと心配する。
- ④ 作家としてドイツ語と日本語の両方とも情熱を以て磨いているので、より精密な表現力を獲得していると実感する。
- ⑤ 多言語使用者が常に体験する刺激や精密さと豊かな表現力を獲得する達成感は、単言語使用者には分からない。

問五 傍線部(4)「豊かさ」の例として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 複数言語を公用語にすることで社会がより安全で暮らしやすくなること。
- ② 複数言語のうち、どれを公用語にするかという選択肢の多さ。
- ③ 英語をはじめとする複数言語の使用による国際競争力の向上。
- ④ 複数の言語が歪んだりほつれたり邪魔しあったりしない余裕。
- ⑤ ドイツ語とすこし似ているが、「ずれている」アフリカーンス語の面白さ。

問六 本文の内容に合致しないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 30。

- ① 夢の中で使用する言語によって本質的な人格が判断できるとするのは偏った考え方であり、実際に人間は夢の中でも多様な言語を操る。
- ② メディアの世界では映像は表現力豊かなものとされるが、それ以上に言語の方が変化に富み、文化の多様性をより背負っている。
- ③ 世界の共通語としての英語が無くては生きていけない時代ではあるものの、単言語社会より複数言語社会こそ国際競争で勝ち抜く可能性がある。
- ④ 多言語社会においては言語教育の問題など大変な面もあるが、複数の言語による相互刺激のおかげで学力がより高いレベルに達する要因になり得る。
- ⑤ 言語の多様化現象は、植民地だった発展途上国に限らず、工業先進国でも移民の受け入れなどにより現実的に存在する。

〔二〕〈古文〉

平安時代末期の一の谷合戦で、源氏方の武将熊谷直実（熊谷の入道）は、自分の息子と同じぐらいの年齢の若武者平敦盛を討ち取った。その後、熊谷は世の無常を感じ、浄土宗の法然上人に弟子入りして出家した。次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

その折節、法然上人、熊谷の入道を先として、御弟子たち引き具して、加茂の明神へ御参詣ありけるが、下松辺にて、をさない子の泣く声のしければ、聞こしめして、御輿を寄せ御覧すれば、いつくしき若君をぞ捨て置きてありける。上人これを御覧じて、「衣に包み刀を添へて捨てるは、いかさまただ人とはおほえず。助けよとのことにてぞあるらん。または加茂の明神の御利生にもや」とて、取り上げ下向ありて、乳母を添へてぞ育て給ひ ウ。

月日を重ね給ふほどに、八歳にぞならせ給ひける。余の稚児たちよりもおとなしく、利根さなかなか並びなし。ある時、熊谷の入道、このをさない人の御髪をかき撫でて申しけるは、「人々多しと申せども、過ぎつる一の谷の合戦に討ちまゐらせし敦盛に、少しも違ひ給はぬぞや。ただ見まゐらする心地のし候ふ」とて、常々袖をぞ濡らしける。

さても、この少人、同じやうなる稚児たち集まりて、弓遊びし給ひけるに、ある稚児、勝ち負けの争ひをして、のたまひけるは、「父母もなき孤児がわれわれに向かひて口をきくことよ。上人取り上げさせ給ひてこそ、かくはあれ」とのたまへば、悲しく口惜しくや思ひけん、カ 弓矢を捨ててぞ泣かせ給ひける。

（御伽草子『小敦盛』による）

〔注〕加茂の明神……京都市北区上賀茂の加茂別雷神社と左京区下鴨の加茂御祖神社の総称。

いかさまただ人とは……どう見ても並の身分の人とは。

加茂の明神の御利生にもや……加茂の明神の御利益で子供を託されたのであろうか。

利根さなかなか並びなし……利発さはまったく並ぶ者がなかった。

ただ見まゐらする心地……敦盛を目の前に見るような気持ち。

弓遊び……弓を射て競争する遊び。

問一 傍線部(ア)「引き具して」の意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 一列に整列させて
- ② あたりを引つ張りまわして
- ③ 列の最後にまわらせて
- ④ 縄で一つにつないで
- ⑤ 一緒に連れだつて

問二 傍線部(イ)「御参詣ありける」・(エ)「八歳にぞならせ給ひける」の主語を、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は(イ)は ・(エ)は 。

- ① 法然上人
- ② 熊谷の入道
- ③ (法然上人の) 御弟子たち
- ④ 若君(をさない子)
- ⑤ 余の稚児たち

問三 空欄 に入る語として適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① けら
- ② けり
- ③ ける
- ④ けれ
- ⑤ ける

問四 傍線部（オ）「常々袖をぞ濡らしける」の熊谷の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は

35。

- ① いつも京都に残してきた自分の息子のことを思い出してつらかった
- ② 師である上人に武者として人をあやめた過去を知られるのが不安であった
- ③ 自分が討った若武者のことが思い出されて涙を流していた
- ④ 父を自分が討たなければ若君の髪はこれほど乱れてはいなかったろうと気の毒がっていた
- ⑤ 若君のいつまでもあどけない姿を目にして哀れを誘われた

問五 傍線部（カ）「弓矢を捨ててぞ泣かせ給ひける」の若君の気持ちとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解

答番号は 36。

- ① 稚児の友達に父母が買ってくれた弓を持っていてうらやましい
- ② 親代わりに育ててくれた法然上人のことを馬鹿にされて腹が立つ
- ③ 稚児の仲間達にいじめられて弓矢を持つ手もいかりで震える
- ④ 仲間である稚児の持っている弓矢の方が立派でがっかりである
- ⑤ 父母がいないことで遊び仲間の稚児達にいじめられてつらく悔しい

問六 本文の典拠（素材）となった場面を含む作品として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 37。

- ① 『日本書紀』
- ② 『枕草子』
- ③ 『平家物語』
- ④ 『小倉百人一首』
- ⑤ 『更級日記』